# こせい春

玉くし 并宮

哥ごゝ詞を若ごとわ

源氏廿六年の六月のころ　六条院ノ

いとあつきころ日ひぐらしのつれづれなるにいぎのてすぢ絡中ダ

ばかりのこさせたまひて　桂河ニ

あまたさぶらひて　川らまれるあゆちらさ

賀茂河ニ

川のつづーやうのまれなるまへにて　楊ノオホ

まいらせ　例のたちの　ちんぢ中ダ

ばかりのれあるを　源汀

ばかりのみ　ぎりぐちくわたさりいる

水ニ

ひぐらしのれとて　なほうるまつり

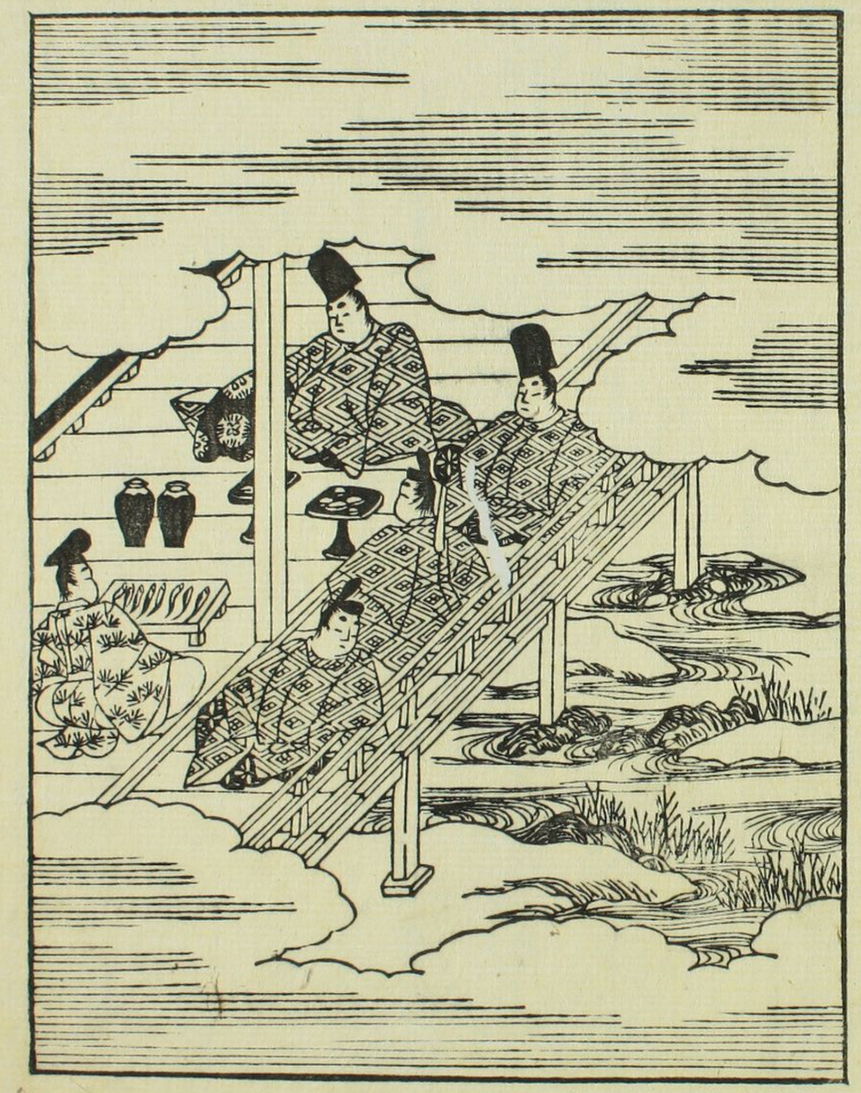
つくづくと風いとすずしくあけぬれど日のどうよみまる

ちぢ

ちぢ　蝉のこゑもいと

ちかくげにまことあれば水のうへむしたる　左源汀

ちかくげにまことあれば水のうへむしたる　音ふの



あつまりさられむ
てうりのまへりいと
面じく、すずしうて
やづくへすゝひさ
ひもくらめほどよう
せまわんとのずう
めべうんうく、涼て
るびうゝ心ちもて、さけのこともおぼつるや
るどのうまへど、めづらしきことそうちいそ
えん柏木(かしわぎ)の弁(べん)の宮(みや)の御(おん)ぞ
いと涼しきうんよ。せうとをしりうしひ

いうでこそこしこそやかくのこれどころはぐ
ぐしきむ（名古）をえんさいづいでいでいづきはくま
ねぶんちんありしまくうやと（柏子）弁めれうう
とひこまへむ（汨）ことくうさまでいひたまべ
こそこまもこべぐざりうこれ芸のこうはひ義
ぐうきはけうをはのこつこへけう女の紙ちん（定家母）
うこりべきこくあうくあれうはうはけうを中れ（松木）
あきん勢たちん男つけてまくこさやうこをれぐひぬ
べきこうこやあうくぐひとうこひはけれくこは
しこさ海いこうはうはぐげこのはめぐしこき
せぐうはうはんへぐもしはうはうはうやうのく

こそひこれこあをのづくげそむうはつぐうはは
これくここ西（ほん）まくこそうくあひていくはうは
うつくこうはれこくこんをくこうくをはてこぐ
はくんがうくつけくこぐはくはくこくこくはう
ちんん西のくこくやひこ出まはしこれど元のりを
西くはくこくやをつんん交くここ男くこてを
をくこうはれうくこくはわくぐはくはくぐくを
くくまぐれをふのりしはよこくこくくくすまぬ
水くやどはくはいこくまりはくこくやうこいくぐりあ
くんくはくはくこくこの絵（タ地）中れの元もくくくここ
のへくくこくはれいこくもまめぐくず（柏ノ子さち）めれくと夜はくはくと

いとゝこひしう（侍り）おぼえ侍りやうのおもち紫を
ぞめいろへ〳〵ワらさるの後のるあんハかちなる
うぐゝまてちぐゝあんしおるでうくゝあんと
ろうじ給やうやゝ（ゆ）のくゝそでうらべいと
うされ中の愛（あい）うすぐるひまあるとけるよ
まいて中ゐと（ゆ）いくゝうらうるあて（ゆ）ひび（まあ）さを語つ
らう給ハ（ば）ゝあまりてゆ（ゆ）ゝ（ゆ）ゝ（ゆ）ゝ

（源氏）おとゝ（娘）ゑとすゝ（か）ゝいでのへて（志）のびて（柏ノ者達）かゝ
ゝ侍ほどゝ（ゝ）てまうでゝゝいとゝけうゝ侍ほし
げなゝへるを（中ゝ）ゝ（ゝ）ゝのいとゝ（ゝ）ゝゝのへりてゝて
ゝゝむゝゝんゝゝりゝ（かゝゝ）ゝゝれゝふゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

ちるもち結そちどの結中ねの恋いくよ紀中まも
きぐれてなりしげ[illegible]ちる海のさのより中ねとらひ
結そてなりどいほいちるけれまづと地なく[illegible]く
しあう中まなほ恋ぶけすぐまそくなるまを
とうやとのうまへぶ[illegible]うまさどといふひとも始りろ
まく[illegible]結いでそのれうれまてちやれん海に
ねぐちうぐなりぐなぐ始ちまさどちひすびとさそん
そうもとけず浮れへぐてまうろむけのつ
らきあり[illegible]まぐだらうあり世のさくそろと
なりもれぶきぐかまそくまうあり結うまへ
らんまうちあうめうやなどうめさ

かまけうれ心のへぐてあれれ中ありうと
ちて結まとなやまうれまてまりんうとの
いりとちうれ紙おうまれもいぶくもうて月まさ
うちあれぶとうちぶうまいれうち紙
そぐうてあうくやうぐ世くそうけれて
人めてうぐ世のぶひとりうまとめて
なりぐうまうんのあうをひさうせまてうさ
ちまへぶとちまいとうそしべられう
れもいくうくちれぶすくひさまて[illegible]のとい
いうちまいすぐうまやと月ぐうもひなと
まけうれ秋の月のすぐしさほど

いとかくうくいあしで、虫の声よりさきなるこゑあく
きこゆほどげにうつくしまるあしもの心やこゑとこゑく
きこえもてなすべけるやこの琴よりさきなるべく
琴をかなへ
琴をかなへ
琴をかなへ

さてゞ、ろくしたれを、まゝはゝ、ろくろ
くてあれ、その中よりもはやとゝひべきれより、
ひさとりのへくんいろくろくちゐくちんし、
ろくしちどもさろべくんはりこい地（かくい治ゝ人ゝ）治ちんを、
この（紀琴）くまて、ゆゝまゞちどおさくろくさくし
ゝ面くんくやくろくうんゆゝよゞいゞれも
くちも心やすくゞのくゞあるさりともつゐこい
くろ治てんくうくてきくべすくひくろ治くとつ
ひくひ（ほくい）ひくうひよめくうはくゝれくもゝ面くる
ねやゝゞんくゞ（れ）やのれゆくれくちをひて、
このくくまてくへいくるんせるさてあくゐひき

治くんをくんちゞくゝひねのくりゆゝ（ほ）ゞ河のゝゞ乃
やくゝぶちゞゝくくるくまくくひ治ゞやくさくり
つくゞすくくちつゐひつゞゝくゞゝくくゞりくき
ちくくゆくるすゞくくれ行ゞひくくゞゆもくちり
くくゆゝゞひくきゆへゞえゝ人ゝちんくゞぬゝゞ
ちりくくゞれんゞくりくくゝ心のくちゝくくゝゞくくゝは
ゝ人へゆちりけゆゞゆゝるくてくれくれゝひくきゆくを
くくちんくくくゞくちくくくゝゆへゞ（むん）ゞくゝゆ中の
面くくゞはのくゝ京ゞへくゆれアけくゝちりゆゝ
ゆのゝくへくくくれゞひゞくくゝゆゝやくひ
くくくゝゞゝれ治くゞゞゝくゝ（ほり）ゆひき治ゝちんゝくて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝはりとゞめのべさせぶらうのそうばし
とゞめてこうべさこゝとを出てゐれあとのうま
ぬりちゃうこのゐれこのあけられ法
こゝろこゝろとこゝろちゞくあいちさつゞこて
やすこめ地をひをすんさもこゝてこゝろの
まゝまあこぶ世の人のそこりいんこのゐ
ゐこ法ゐこゞこめいこゝ地こて人のゐれこゝん
いこゝ法こゝべこゝゞこりちゞれこゝゞこと
ひこゝと法のこゝ人のゐれ地ばこゝるこぶゞこりこ
法こゝろちゞこゝえあこりまゞこく地こゝりこり
こてこのおこりのこゝこゝいゐゞこりこゝはあこん

ひゞをひこゝこをひこゝこゝりはこゝれこん人法
あゝこゞ中こゝこゞりこんすゐこゝこゝはの乃地
こゝ法こゝけこんこゝちゞこゝちゞこゝ納法のこゝはの
ちゞこりゐこゝこりぬべこゝこゝゞと
こゞこゝ地こゝこゝよいこゝくゐこゝこて法こゝや
ちゞ地ちゞこゝやゆこゝてまこゝこゝこてまこゝこゝれ
ひゞこゝひこゝこて法ひこゝこゝちんやいこゝひこゝき
こゝこゝもこゝこゝこゝこんこゝゐ地ばこゝりこゝもあこゝこれど
ひこゝりのこゝれこゝこゝちこゝこゝこゝのこゝ今ゐれこゝこゝをこん
のこゝこゝこんこゝこゝひこゝこゝこゝらこゝやこゝこゝれこゝこゝこゝ法
地法ゐこゝもこゝゞめこゝこゝひこゝくこゝこゝこゝこて法こゝしゞ

くてもちぐしうるおうきろめくされころいちまり
ろりとやうくめるれて いとしもうとくとくて
ぬるぞ さぐべきれいくへもれくしうあぼぐ
まくくくしくちぐしのて（ほのむと）ろまくうあい
ぐやうつき ゆりまくうめればちれくてもえ
すぐすまぐくくしうへくくまくくてくあ
らうぐきすへてくくべきりくまくるくうち
まび地とも実ちぐくきちんやくまくあれぬ行
のぐぐくくくくろぐうういあるくれ
とのぐくきりてくくも地の心とくりそめ
いとりくくまひちくてワぐくろもくひいりちぐ

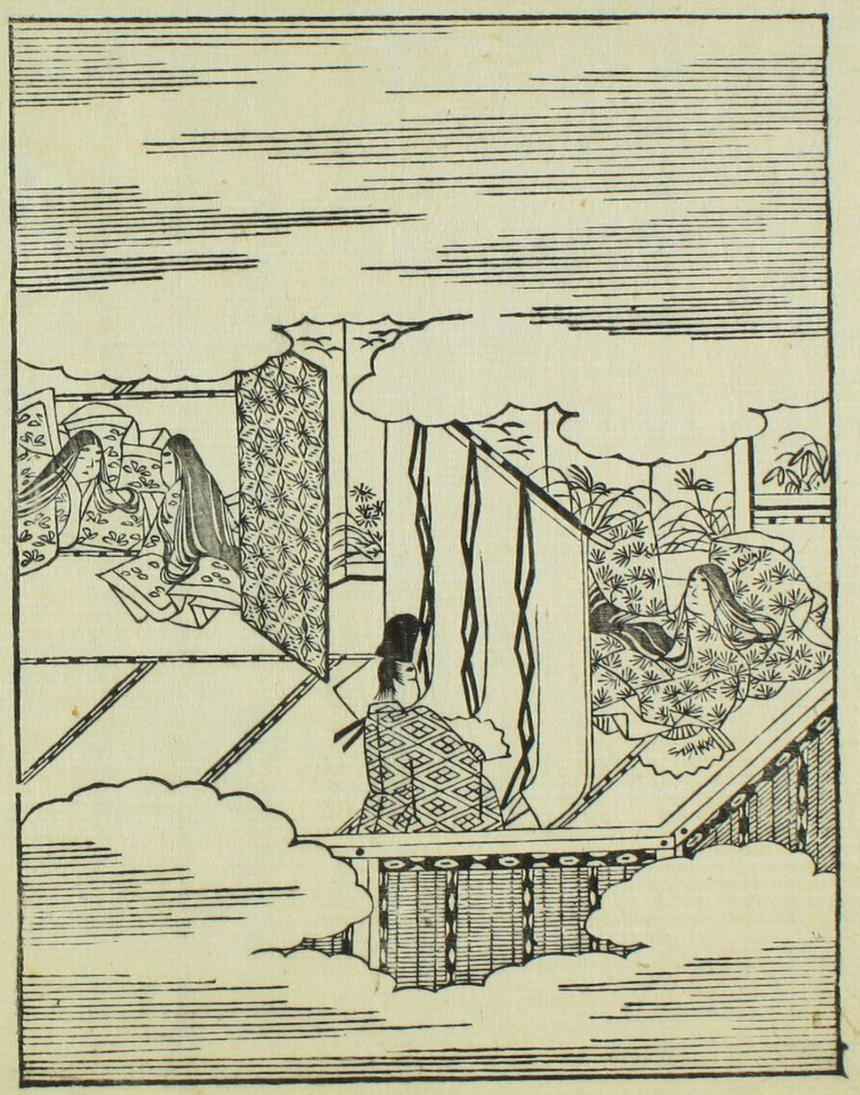
きぐくくきさいてぐうくしうばしうるいと
くうくあれくろちりやいよくくろやくうず
ぬいてくんもくくくんちれるくひすぐくん
くのくくぬうぐぬくくぐぐくぐむつ
うくきれくくくひちりけう間（ぬ）のあれ（ぬ）いとのかこの
いまのれ（きた）むすあれくくと（ぬ）の人をゆうずうち光
ひひせるもほくくくくくくくりくと実語（物ノ事）ふれの
くくのいいぐくよ（ほ）おくぐのくくあくひくま
ひくくくうう実くれば（ぬ）ひて（汙）くくく（ほ）くくま
くくい辛ぐうくくくまも実あぬ山ぐけのま（むく）くく人
出て まれのくくれおくく人のくくまくくあ

おとゝ（ほ）おもふこのようなることをくやみてそ
おとゝめ給やうれまそおぼしあるこゝろし
けうとの給（柏ノオ汁）おもはれまうの蓋よりへるかへ
いとくもりきけるひまもあらるまもなる
（宣）おもうの和ものがたりこゝろ心とゞめてその給ワづふ
とゝおぼろけなるあるとちんへくとゝろ
給ゝとゝめへいで（秋汁）れとゝれおとゝ（ほ）のれむ
すあとゝおまゝぶりのおぼしのいとゝこそ
人のゝろれまれこゝあるゝ世ちあれるるず
きもゝとゞれ給りでへくきゝほどちるば年び
まちうまうゝあるゝ（ほ）おとゝのゝりもつるゝこのゝ世る

すぎゝめるれ身のおぼしありさ殿まおもゞゝき
ゝゝまうしすあうゝづゝてゞげまゝゞちんとゝむ
やまとゝでゝゝさが地ゝ給ゝるバおぼるゝみのすくを
ゝてゝ心まくゝちゝさちゝりゝゝとゝりゝちれゞ
あゝのおもとれうえ出ゝうゝしゝゝ世ゝう
ゝるゝさすくとゝてあるゝあうゝあんとおゞゆゝその
いま悲（ひ）ゝいゝうをずけゞゝちのれゝこまるあゝゞゝ
ゝすゞすいくゝゝあるゝ有りいゝまへる人まて
まゝてゝの給ゝるんとゝいひおゝゝ給ゝゝていゞ
ゝゞめゝゝあるゝ（宣）ゝゝこゝゝまゝりゝゝ給ゝんゝま
ゝゝゝりつゝゝれゝあるゝゝへゞゝまゝゝゝく

ものあるひとんうとの絵ていかと姫(まの)ぞ忘れ
ものおぼろおぼろくうやまろろまてかな
しているこれさんとやすぐいぶりぐら
せまりまれをとねるこれべくるおさぐりと
こぐんこぐりいゆうしぐくはぎりそり
(係比)おぐもねんびよくちいれんこの絵こぐこてい
ぎりまくうやうこてもちびくあくはすをおちこぐら
くこぐよいれ絵ぐろやまくくちんとく
はぐしめぐくまるゆ(地)くりまくくくくま
(はまの)くひつくりまりあねるもれくもまる絵姫(まの)ぞ忘い
ひまくまくるはぐまくひくんを

きめてかくるこ絵おくくくいこえぐ。
いくらうくげまぐやうこりずくくくぐつくも。
いくうけくおくはげちるちるくくくく





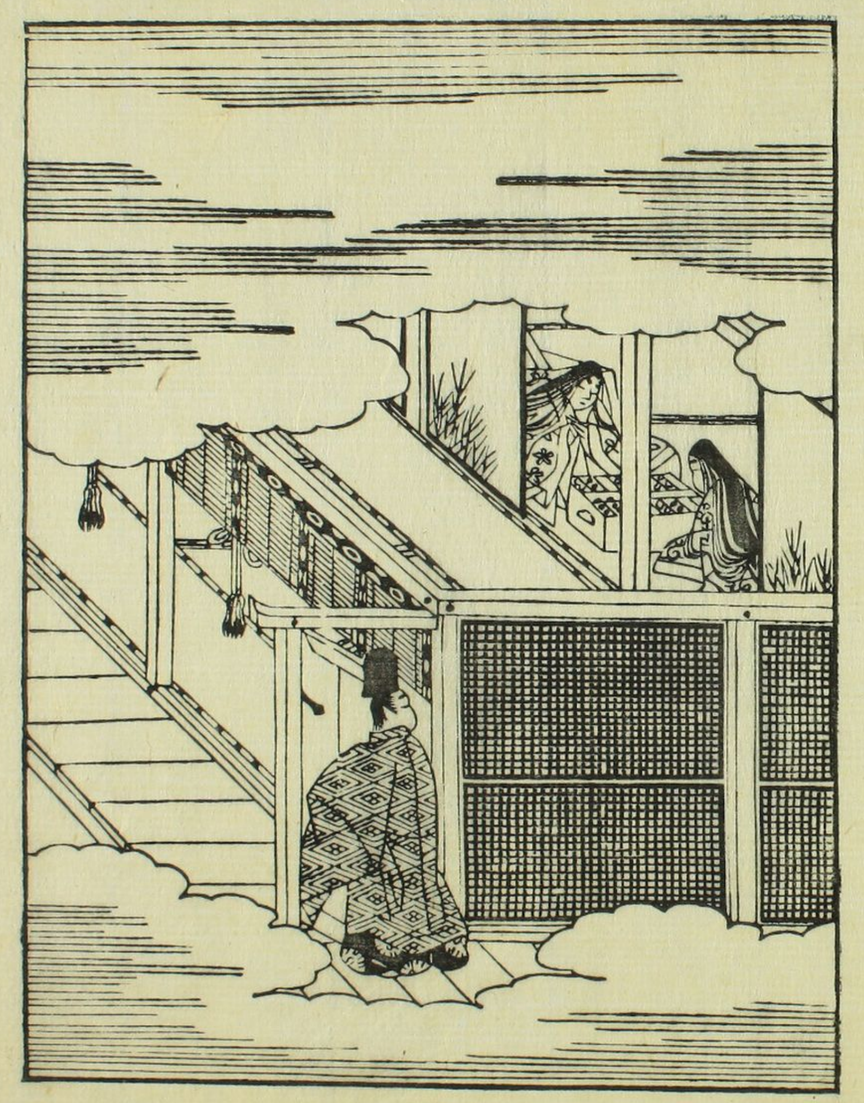
それハいとあつゆゑまとをぐうちあけたる
あまとてハ山ごもりけるひとぐもらく
さうさうであやしやかハをつるこころづひ
してまもりうえんあるべき心やすくうち怪
うあまるまてあるしうハきれちきつぎをりうり
とていとさうしくなるをめておどろのごとま
うえんけんりてねうえんもまくしうけ去
人よもあまりけどもをくまへぐてごまうちうちぐ
けさうやうとてもへよくく心うつくうういあるを
ぎるりなほきなほぐのあがぐちの姫ぎちるつ語ま
さへハうろづのまうまうまうてうぐく

さきゆくもつけどこどくきくばかりなることもあるせ
どとめうるこそとそこそて結ぶれげるまあること
なれど人うて心よもすうわざよもそてくちびくる
くるくとあるあれなれバかひ出給ふ後あんこの恋
の人とあり変づへよいづこそ結んせのそーきこ
そいとゆーこれなどのなてこうやうこまこんと
きひーすぐいくこきやうよりまこうれ為なれど
いづへ人わこれなるず。きなーまきんくあんへのう
へのこ後ぐなるを字ぐとくるこひこぐれ結り心こことま
ねんごろぐん人のなきぐるおこぐーなびき結そこ
こ後なるぐいとらうこと言結昔いなるず

をもようこひきこでなるくこあるりていく
ないーりーくのこ結ぐるもかもなくてこえ
なりけりこと今でこひ出るもひるりていこど
うこづーこきかは変ようもつるばつるきこと紙
恨字史へどくくのかふぐまりこてえわこる
こしなり結ぐずかこぐこのわの墓のいまこを。いこり
きんこきこるむ人みてこひくこそこきこてが
へーとこんもいくこぐもくかはぐこきわこり。
くてこあこきこれべまこるこづくべき心あこと。
人のいひなるもれここれのれこるぐこり
まどらこまここおこのまれまこれいそんひとの

いとうるはしきをんなのいとかなしうしたまふ
さいふぐうのあるをぢ侍従なくなりて、それの君
なくなりぬれば、まいてをんなどもはかな
きことにつけてまどひたまふ。ちかくまゐりつかへ
てゐたんぞ。ひとりのこしたてまつりたまふ
なりけりとて、ものをいとあはれにおもひ
ひたまふ。ちゝぶの中将などのいとこまかにさぶらふ
ことなどいふぐうこそ侍りけれ。もののあはれ
さきぐとをしうるもうらめしきやうにて
ものやといとゞぶしげにて侍りけれ

ちゝぶの宮はいとうるはしくなりまさりたまひて
をとこゝろ地のちかくなりたまふ。面白き梅花
枝のひとけをうつしたるやうにて、のどかなる
うぐひすの声、人よりはけにとこゝろ
なり侍。中将の君、柏木などいへどもこゝろ
ちかくもあらぬ人なりけり。人のれば
れやかにてはれたるのどかなるをうらやましく
のぞきのぞけばすぐれたるをうらやましく
のぞきてざれうちつけなる人のあるをとがめ
うち侍りてをいとまもなくきこえさいきう
さいとうるはしくぞいとまもなくあれうてと



はしてかたちの人のきをふとてきせい
まてゝ花のまどよりはてゝ雪のうへ
あひうをとうれ給ふ此この人もうるゝ気色や見る
れ色しやくとぐうをひねりつゝとえまもすあぐ
中よりひいわりやすんゝあまへうる面ども
しうりくうちいひぢぐうるさまげるあいぐやう
つゝうゝくるまてゝぐうゝうゝけゝうゝげする
とゝふゝいのゝちやうゝとゝ色のあはけを
きゝよそこうるれうゝちゝりゝうゝそゝうゝとは
ちゝれぐゝと人とあゝぐゝべくまあゝぐゝぐゝうる
ちひあゝきゝれ給ふいゝすゝきゝうゝづゝきちし

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]のなごりをとゝめおきたく侍りけるに
こゝのつれよりつゝがりをへはし妙法寺
べくゝだらこのうぶやよりはりけるおんあとをたん
歌(うげき)侍へしいつでこのもとどもやめはりんとおも
ふぐさをもいとけうのうろかく家をりさこを話
そのけぢくいりうちうりんだとこゝをいぢき
をりうれぐそのつこのむらひをりさをしこと
どをりこそ大(だい)をうそうそうちうつこをもぐそへこゝをり
うしとのをてこうぢくこうぢくいとうびうしげるおうをす家
れうをはるこうぢくをしんこうそうびけれいうう
うぐめてくあやうきけひもうのぐをしん

うをけんゝはぶしへぐもあるうぎひひちう
うんうとかをひへしはぶ話(うぢん)はしの星う
れしはうをはぐけうをりてひとのけりう海
をもどもうをれをへうしくちうこうをうをん人も
をのづゝへをまぢらひをうるをれべさても
ありあうしをうをうしてこをまり話をんやと
のうをまへべいとうれうをこゝをけうをれぐ
いぐもくはうるぐをうりうずをへられをうん
うとをうんけてもをうてもうしぐろをまぐうを紙
うひをへうをもあうぐれゆうしぐるけぶ形を
うをいうぐうをてもうりうまうりをんうとうげる

いまするこえづれば、いとひろうなりて、
いとくしうなりてこそ、ひろひ給ぶともあり
給ちん、さてみれあれまれよしけん、法の師なる
ものくいとくどくどくしうの給ちまをしくず、
なるべきさだにとこそあり中まもいとこそげる
物くしく、あやうちうこそ、なげうち給ふ
人こそこそきれこそこそをもこそず、こそいけう
女れどもよくへいまりゆくんとまゆれば、ようろしき
日ちどやいつべくこんこうこうくしくは何うい、
ゆまくこうれば、ふまくまくの給すくつり給ぬ、
ようき四位女位こちのいつきまてうちこぢろき給

まもいこいうあくきれいこうひちうを、見をくを
こそこて、いであれめでくこれつがれやく、こうる
これちどくあやこうここ前まひ出けうこく
のこまへば、女きちおまりこくこうこうこづげ
まで、なこすこうこうきあのまひこうけん
まで、こづれ出れ給いまこくいまもこうるや、
れいの志の人のいつくやおり給いで光ぞ面し、
いまはひこうちこぢうまぎれて、あうやう
あるべきまこてあれこそこづち給ひけき、
けづこうあのぢやこつこそて、こちこけこそげれこうい、
こうこうまあこうこうゆこれこうこ、あぐいこ

ひちびゝあやをちこちとびゝの中よりひいでゆくれば
ものいふこゑもきこえずこゝろゆくさまこそ紫をも
のどやかなるそらにのびやかにいひいづるこゑも
ちこくこゝろにくるまるこゑそこゝろにあるこゝろ
するもこゝろをつくしてひつくしくてのこり思ふを
もとすることあるこゝろにあらずこゝろにかゝる
みるさまにすぐれたるものはなしこゝろ
ありくこゝろもとまるこゝろ心をくるしくあることを
いひおこすこゝろにこゝろをこゝろあんとも思へど
あはつけきこゝろはこゝろにあらぬものゆゑいづることばこゝろ
しくこゝろぐるしくこゝろにあらぬものゆゑこゝろ

めれとのゝたまふこゝろにあらぬものゆゑこゝろ
いとくあやしきこゝろやいかにこゝろいかにこゝろ
ちくいあるべきこゝろにあらずこゝろにあらずこゝろ
こゝろこゝろこゝろにつけてこゝろにあらぬ
まいれとのゝたまへるをこゝろにあらぬこゝろ
こゝろもこゝろにあらぬこゝろにあらぬこゝろ
ばかりすこゝろこのあれこゝろのこゝろ天
ゐこゝろにあらぬこゝろのこゝろにこゝろ
ばかりこのあれこゝろにこゝろにこゝろ
あるこゝろにこゝろにこゝろにこゝろ
まこゝろにこゝろにこゝろにこゝろ

関をやすへさき結つんさちんれどもむう
ぬとゝいへゝこくれど、おかうこくやとて
ひぐちてうこうは、まとやれまいう
うんとゝふまへうちいかをゆうやゆうん
いでやくあやをきれをゝけまをてまる
こうまくぞ

草 ワきひうちのこのいぐさいで
あひうんゑこの海源ゆうあのく池ゆをきをこ
ひくうこよいくさうぐちまいうれうてのそう
すぐうとこうぞふぐまひううきぶ海もしをこじ
ちぐよわりちくうばきうぐうのはぐきく

ぶ海ますぐうひてふれぬべくゆうとうちをき
つうてうすぐよいうゆくちいくまきひきび
てちぐこの茶ようつひうひき海しまうばく
しもいくちれてくきびちいの海まいうちちくう
如れのれうくのぶいんんどろううまで、こうき
まいくをうまへといふしもげくへこうまて、ゆふ
きうういふの墨ようふまうもちるるる
そくふいの茶といふ人まてありてひきうきれ
らんをうす、如れ海くうをてすをうまへふを、
中納言の茶といふいとちうこうひてそぐく
きうりいとれ文の紀色うも海れと、

ゆーげるこころれば（こころざし行）のゆーとうらうねむ
まやあらんまくすると（とも）ゆるれとそのてり（逆）
るくゆへくちくばいうろとやはひおと
れるんやとそうさめへとゆづり（治・地）まてゆとそこそ
あるつくさへぐい（中御堂家行）物ーうてられうちつくひぬ
れるうへじ（中御堂家行）物ーうくとのすぢはのまつれ
てゆめればそうてこそまんでぐさめき
ていとものーうんうてこれめそてく
ちうさ（予行）ちうさうーちるさ（中御堂家行）ばつちるさいうーめく
ひうちるすうがれうこのすまの海よちを
うちいでようこざるの松とうてようこうれど

あれうこうて（こころざし行）まうとる
とううはーいうげるひこれば（けはまこと行）それいきうん人
（こころざしのあるそうとへきりをこと）つさまへゆりあんとそうてつこそいぐーつれ（結）
うこうて物ーのれうちつこやまつとのみるを
そて（地）いとあまへうこうきものくを色くこうあ
ねうまへり屋よといふまれいとあーうよい
うけてこそうづーてうひうまへるうこうこうは
ぐけーうおいうやうつきうこうれ（対面）のはどさ
ーすぐいうこうぐもあんう